

本論集刊行の趣旨

すべての言語は同じ生物的・認知的基盤の上に形成されたシステムである。しかし、言語の構造は、実際の運用とその積み重ねとしての歴史的発達の中で様々な機能的、社会的要因によって形作られ変化していく。複雑に絡み合う諸要因の駆け引きの中で発達してきた個別言語の一つ一つは実に多様な構造的特徴を見せる。言語のそうした構造的多様性の幅が普遍的なモデルでのとりまとめを許すか否かは、未だ経験的な立証を待つ問題である。

本論集は、アジア・アフリカの言語を主な対象として一次データに基盤を置いた記述的研究の成果を共有することで、一方で言語システムの実現形である個別言語の包括的な理解を深め、また他方で人間言語の構造的多様性の幅と深さを明らかにしつつ言語記述・理論研究の枠組み及び一般言語研究の目指すべき方向を改めて問い直すことをめざし、創刊された。

『アジア・アフリカの言語と言語学』編集部

荒川 慎太郎
呉人 徳司
澤田 英夫
塩原 朝子
中山 俊秀
稗田 乃
星 泉
渡辺 己